

# 文で流

3

立川と語ろう 立川に生きよう  
March 2009  
écoutez bien Vol.27 No.292





# カフェのごちそう



プレヤッサ

経験したことのない味に感動することがある。雑木林や畑を駆け回って遊んでいた小学生のころ、ある日都会のレストランで〈グラタン〉を食べさせてもらった。バターとチーズのこげた香り、熱々のクリーム。柔らかいマカロニ。世の中にこんなにおいしいものがあったんだ! と子ども心に幸せを感じた。

最近、セネガルの料理を初めて食べた。子どもの時と同じように感動した。米を食べる国だから、日本人の口に合うのかもしれない。タマネギをベースにんにくとスパイス、ハーブで鶏肉をじっくり煮込んである。味付けは塩だけ。セネガルでは大量の油を使うことが豊かさの象徴なのだそうだが、この料理にも大量の油が使われている。ところが、まったく油っぽさを感じない。その秘訣は、こちらも大量のレモン汁。酸っぱさを感じさせず、さっぱり感だけだしている。一度スプーンを持つと、一気に最後まで食べ切ってしまう。老若男女を問わず日本人が大好きなカレーと同じような料理だけれど、カレーより重くないのが〈プレヤッサ〉。



チーズケーキ



お芋とお豆のクリームスープとキッシュ

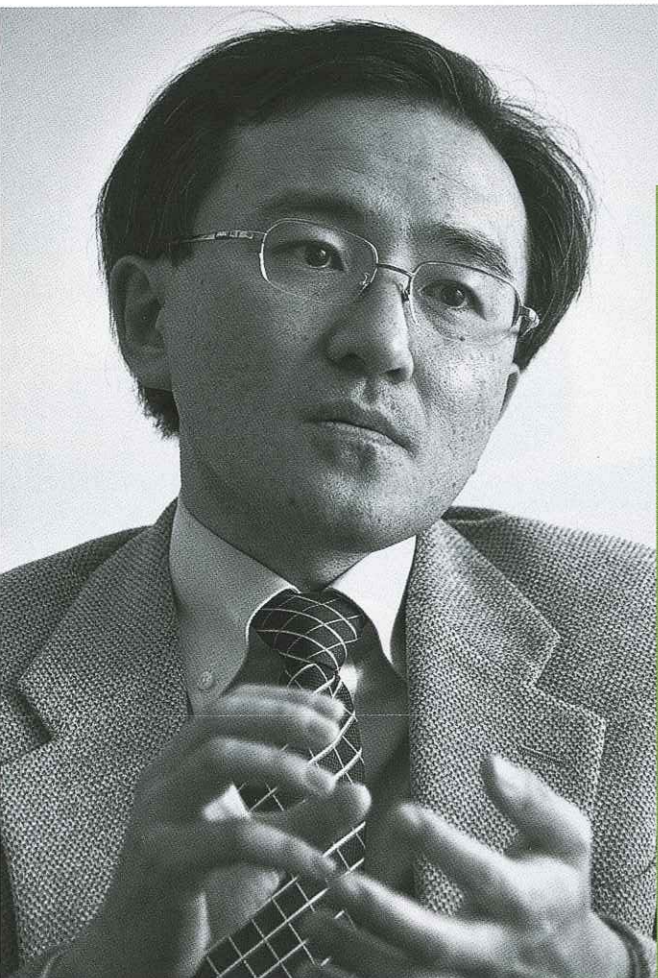
カフェ ソメイエの定番メニューには、〈プレヤッサ〉の他に〈お芋とお豆のクリームスープとキッシュ〉がある。芋と豆の自然な甘味がやさしいスープ。この日のキッシュはサーモンとほうれん草だった。スモークサーモンにパルメザンチーズをかけオーブンで焼いてから、キッシュにする。見た目よりボリュームがあって、栄養価の高い実質的なメニュー。数に限りがあるので、その日の分がなくなったらおしまい。

デザートには〈チーズケーキ〉。しっとりしていて、さっぱりしている。上に載っているクリームも甘くない。コクがあってなめらか。おいしいケーキだ。

南武線や中央線からよく見えるサンパークビル。窓から行き交う電車がよく見える。アンティークな色調の店には、時間がゆっくり流れている。外をぼんやり眺めている間に、何本も何本も電車が通っていった。遠いアフリカの地では、どんな風に時間が流れているのだろう。ふと、食べられることに感謝がわいた。

# 病院の言葉を分かりやすく

国立国語研究所 研究開発部門 言語問題グループ長  
**田中 牧郎**さん



■田中牧郎(たなか・まきろう) 1989年に東北大学大学院文学研究科国語学専攻博士課程後期単位取得後退学、大学教員を経て96年より国立国語研究所研究員になり、06年から現職。専門は日本語学(語彙論・日本語史)。外来語の言い換え提案や、「病院の言葉」を分かりやすくする提案など、難解な言葉の改善に取り組む。島根県出身。主要編著書(共著)に同研究所編「分かりやすく伝える 外来語言い換え手引」(06年、ぎょうせい)など。

■清水恵美子/えくてびあんと多摩ではコネット編集工房

於：国立国語研究所 写真：五来 孝平

**清水** 今回の言い換え提案は「医療」がテーマだったのはどうしてですか？

**田中** 「外来語」の時に国民にアンケートをしました。どんな分野の外来語を言い換えてほしいか。多かった回答が「政治経済」と「医療・福祉」だったんです。そこでまずは「医療と福祉」を言い換えよう。ふたつやると拡散するので「医療」に限りしました。

**清水** 外来語の時にも感じましたが、面倒で大変な作業の積み重ねですね。

**田中** 大変でした。我々の研究所のノウハウの自慢できるものとして、コーパスがあります。たくさん文章をコンピューターに入れて、それを統計処理し、言葉を整理する。その方法を使って、医療分野ではよく使うが一般の人は使わない言葉を引っ張り出す。それを、一般の人

が医療に触れる場面が出てくる言葉と、専門家だけが使うものと分けて……とそんな操作をしながら、何十万語もある中から最初は2万語。2万語から重要さやむずかしさという基準で機械的に2千語を取り出し、委員会全員で見ました。2千語なら、人を見ることが出来ます。委員会が丸づけして100にし、少し詳しい調査をしました。1万人ぐらいにアンケートして、この言葉を知っているかとかどんな誤解をしているかとか。そこから検討して最終的に57語にしたわけです。

**清水** その57語が本になりました。「病院の言葉を分かりやすく 工夫の提案」。3月から一般書店で買えるようですが、これは医療関係の方が読むものなんですか？

**田中** そうです。マニュアルにするので

はなく、これを読んでなるほど思ってもらって、ここから自分なりに工夫してもらおう本。患者さんに説明する例が書いてあるわけです。

**清水** 患者側の私が読んでおもしろかったですよ。「まずこれだけは」とか「少し詳しく」「時間をかけてじっくり」と説明の段階が書いてあって。また「こんな誤解がある」とその実例も書いてありますし。自分がどう誤解していたかがよく分かります。「頓服」を会社の人に聞いたら、「特効薬？」って言ってましたよ。

**田中** そうなんです。「頓服」は薬の飲み方の問題で、症状が出たときに薬を飲むことです。患者さんが自分で調べるための医療用語集はすでにあるのですが、医療者が調べる本はたくさんあっても、ずっと専門的になってしまう。でも必要なのは、実際に仕事の現場で患者さんに説明するための手引きだったんです。

**清水** 患者さんとのコミュニケーション、相互理解は重要なことですね。

**田中** 治療の方法などについて十分な説明をしなければならぬと規定されたから、お医者さんはたくさん説明する。その説明が、自分の知っていることをそのままズラッと話す。どの程度伝わっているか、患者さんがどこまで理解しているかを確かめないまま進んでしまう。患者さんとしてはサインしないと手術もできない。よく分からないので、「サインを」と言われればたいていします。形式が先に決まってしまうと、患者さんが本当に理解して同意しているかのチェックができていなかった。まずいと感じている人もいましたが、どうしたらいいか具体的な動きにはなっていなかったんです。そこにこの本が出た。医療関係者にアンケートしたのですが、一番多かった意見は「患者さんがこんなに分からないと分かり驚きだった」。

**清水** がん患者会の会報など見ていると、

「エビデンス」とか「QOL」とか普通に使っていますけどね。

**田中** 患者さんもがんや糖尿病のように長い治療に取り組まなければならない場合は、もう専門家です。そうなるという言葉の壁はなくなります。でも、最初の段階で、今までその病と縁の無かった人がいきなり大病で手術と言われて、何か決めなければいけない、急がなければというときに、「はい」と答えてしまったためにトラブルが生じることがある。今回はそういった場合の言葉を集めたわけです。

**清水** よくできていますよね、この本。例えば今後何かトラブルがあった時、お医者さんが患者さんにどのように説明したかが問われて、この本のここまでは説明したとカルテに書いてあったら訴えられないとか……(笑)。

**田中** そこまでいけばすごいですよね。診療ガイドラインというのがあるのですが、コミュニケーションのガイドラインになれたらすごいですよね。

**清水** うちにある「家庭の医学」と抱き合わせて入っていたら患者側の役にもたちますよ。

**田中** それもいいですね。

**清水** 外来語、法律用語、医療ときて、次は何をやるのですか？ 政治経済ですか？ または、例えば外来語や医療用語の第二弾とか？

**田中** そうですね。外来語もそうですが、一回やって終わりでは本当はまずい。そこから検証して、さらにより良いやり方にしていかなないと。ご存知でしょうが、今回の行政改革で国語研も組織が変わるんです。それでこの仕事が任務ではなくなります。

**清水** ……って、どういうことですか？ 言い換え提案はやらぬ？

**田中** 任務ではなくなります。

**清水** つまり？

**田中** 今年の10月から国語研は人間文化研究機構の中に入ることになります。新しくできたお隣の建物は東京地方裁

判所八王子支部が移ってきます。その西側は研究機関。国文学研究資料館、統計数理研究所、極地研究所。その中国文研も人間文化研究機構の一員です。大学で言うならば、文学部の文学や歴史、文化、その中に言語ということでは我々が一緒になるということです。そこでは学術研究が中心になるので、本当にアカデミックな研究になりますね。国語研はアカデミックなもの以外にも研究があったのですが、アカデミックなものだけが残るという形です。

**清水** では、誰が今後、分かりにくい言葉を言い換えていくのでしょうか？ こんなに地味で地道な作業を、国以外の誰がやるのでしょうか？ 国語研にはその役割はなくなるわけでものね。

**田中** はい。かなり大幅に変わりますね。削減です。

**清水** 田中さんご自身はこの研究をどうするおつもりですか？

**田中** その必要性和役割は感じていますので、新しい機関にいてもやり続けるつもりではいます。でも、それをどう発信するかは考えないといけません。任務ではありませんのでね。同じ意見の研究者個人が集れば中味はできると思うんです。この仕事は1人ではできない。議論しながらできないので。またこういう経験をした者どうしの議論は必要です。新しい人にも入ってもらって、分かりにくい言葉を分かりやすくするための言語学的方法論を確立したいです。

**清水** 任務じゃないのに？

**田中** いえ、きっといつか任務になると思います。やり続けてさえいれば。



- いなげや 立川南口店 526-2947
- 株式会社 正盛堂 522-2328
- いなりすし・のり巻きすし 松月 523-4758
- 小林歯科クリニック 527-8217
- ビューティーサロン ウィスタリア 527-1116
- オリオン書房 サザン店 525-3111
- とんかつ専門 かつ亀 525-7647
- 医療法人財団 天祐会 三船クリニック 521-3386
- 西武信用金庫 立川南口支店 529-1311
- 多摩信用金庫 南口支店 528-2211
- りそな銀行 立川支店 522-4161
- オリオン書房 アレア店 521-2211
- ほっとすべす 中屋 522-2932
- サンカメラ 522-3336
- Coffee Shop LARGO 525-6704
- パッケージプラザ カサイ 522-8601
- けやき出版 525-9909
- 手打ちぎょうざ工房 522-4770
- 喫茶 ギャラリー花 524-3668
- 矢沢 歯科眼科 525-6600

えくてびあんの輪  
 立川と語ろう 立川に生きよう  
 えくてびあんは  
 リストのお店にいつもあります

今月は 柴崎町・富士見町のお店です。

- 手作りケーキ・フルーツシュクレ 525-3513
- 株式会社 京王ストア 立川店 540-1131
- 武本測量株式会社 524-5503
- サーフショップ Waioli 522-7331
- NPO法人 東京賢治の学校 523-7112
- 株式会社 浅見 酒店 522-2823
- 伊藤 接骨院 524-7861
- ディサービスセンター Aso 524-7231
- カットハウス ひまわり 523-8619
- 手作りケーキの店 プティ・パニエ 529-8364
- さえき 西立食品館 529-5333
- (株)ヤマダ電機 526-1099
- 株式会社 ダイクマ 立川店 526-1046
- 井上レディスクリニック 529-0111
- 中華レストラン 東華園 529-0458
- 榎本 調剤薬局 526-2322
- フルーツ&ベジタブル 三登屋 522-3021
- 有料老人ホーム サンピナス立川 527-8866
- 飯塚 花店 522-5684
- うさぎ専門店 ラッキーラビット 524-6054

# ぼくたちの “ものづくり”

## たまがわ・みらいパーク プラモデルづくり教室

プラモデル——ある年代以上の者には懐かしい響きがある。模型屋さんで箱の絵をあれこれ見比べ、細かいパーツに悪戦苦闘し、出来上がった時の高揚感。ゲーム世代の子どもたちにも、自らの手で作り上げる楽しさは確かに伝わる。富士見町の旧多摩川小学校「たまがわ・みらいパーク」で、プラモデルづくり教室が開かれている。

写真：小林達実



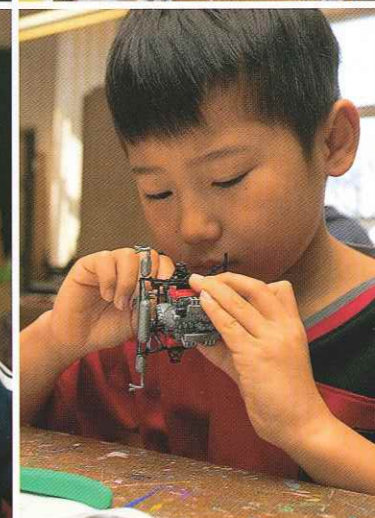
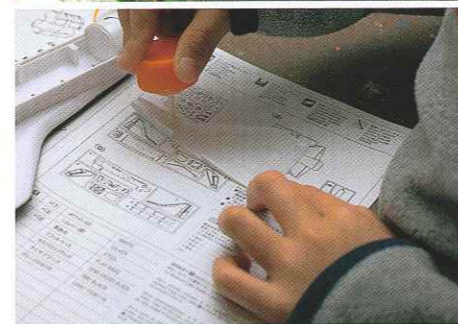
小学生を対象にしたプラモデルづくり教室を開いているのは、NPO法人「より良い住宅環境作りを支援する会」（小林正幸理事長）。会員は建築士が多いが「子どもたちに自分の手で何かをなしとげることを体験させたい」という願いが、プラモデルづくりという形になった。理事長の小林さんが筋金入りのプラモデルファンであることも大きい。

日曜日を原則に月1回のペースで開かれている教室。午前9時過ぎから子どもたちが集まってくる。会費はプラモデル代だけ。一緒に来たお母さんお父さんにその日作るプラモデルを買ってもらおう。プラモデルは小林さんの膨大なコレクションを中心に子どもの希望を聞いて準備する。普通に店で買うよりかなり割安。昼食持参で午後3時半まで。1日で完成させるのを基本にプラモデルづくりに熱中する。

初めての子どもが作るのは「スペースシャトル」と決まっている。部品数が少なく初心者でも1日で組み立てから塗装までできる。積み込まれる宇宙ステーション用機材を通じて宇宙や科学への興味も持ってもらえる。製作に必要なニッパやピンセット、ヤスリなどの工具、塗装用の塗料、筆などはすべて小林さんたちが用意している。

2回目からは子どもたちが自分の作りたいプラモデルを選ぶ。この前飛行機を作ったから今日は車、城や船。箱から部品のついたランナー（枠）を出し、作り方に従って順序よく部品を切り離し、組み立てていく。余分なバリなどははいねいに削り、接着剤を慎重につけ、取り付けたらしばらく押さえて確実に……一心不乱に一気に作り上げてしまう子、ゆっくり段階を追って作る子、マイペースな子、それぞれ性格が表れるのもおもしろい。

お父さんも子どもと一緒に自分の作品を作る親子の参加者もある。アニメ主人公の大きなプラモデルを数か月かけて作る子もいる。自由に自主的に、それでも細かい作業をしている子どもの表情は真剣。広い窓から富士山を望む明るい教室に、ふだん経験できない時間がゆっくり流れる。



立川の話題いっぱい！  
わたしとあなたとたちかわを結ぶ街ナビネット  
多摩てばこnet  
www.tamatebakonet.jp/

立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F  
TEL/042-548-9606

常楽我浄  
真如苑提供番組くじようくじようく

スカパーフェクTV 216ch  
マイ・テレビ11ch  
放送時間については番組表をご確認ください。

立川に育てられて七十三年  
真如苑  
www.shinnyo-en.or.jp

FROM CHUBU  
フロム 中武

■営業時間 am10:00~pm 8:00  
〒190-0012 立川市曙町2-11-2  
Tel. 042-524-7111 (代表)

FM84.4MHz  
FMたちかわ  
おとやもとなり  
音楽屋元就の  
多摩てばこラジオ  
日曜午前 11:00~11:30  
提供：えくてびあん  
●リクエスト・ご意見は●  
tbox@fm84.4.jp

クイックタイプから最終製品にいたるまでの一貫体制を構築しています。

株式会社 大廣社  
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13  
tel. 042-527-1911 fax. 042-527-1949  
E-mail info@daikousya.jp  
http://www.daikousya.jp/index.html

えくてびあん流

横溝健志さんの写真集『思い出牛乳箱』発刊



現在東大和市にお住まいの横溝健志さんが旅の途中で訪ね歩いている牛乳箱の写真を『えくてびあん』誌上でご紹介したのは2000年5月号。その後も日本全国を訪ねる旅は続き、このほど、その集大成というべき写真集『思い出牛乳箱』(BNN、1500円+税)が刊行された。

北海道から沖縄まで。ページをめくっていくと、ふるさとの懐かしい牛乳ブランドに出会えるかもしれない。昭和の匂いのする家々の情景に溶け込んだ牛乳箱。横溝さんの眼差しに連れられて、いつしか朝のまどろみの中に開いた自転車の音、瓶の触れ合う音、カタンと箱の閉まる音……郷愁に満ちた音まで聞えてきそうな写真集。

吉例〈ベスト立川人・展〉開催

新春恒例のえくてびあん〈ベスト立川人・展〉を今年も開催いたします。この1年えくてびあんに登場していただいた方たちを一挙紹介する写真展です。毎月表紙を飾った立川人をオリジナルプリントでご覧いただく写真家・細江英公『えくてびあん表紙の人・展』、対談・VIEWにご登場いただいた方々、さらに特別企画『岸中さんの庭』写真展を開催。武蔵野の風土の四季をお楽しみください。季節感あふれるポストカードも販売いたします。人がいて、立川は今日も明日も元気です。ご来場くださった方々には、えくてびあんオリジナルでぬぐいと、1年間の「この人・この店」登場店を掲載した別冊特集号〈イヤブック〉をお配りしております。

第24回『ベスト立川人・展』  
平成21年3月10日(火)～15日(日)  
午前10時～午後7時 最終日は午後5時で終了。  
会場 立川市女性総合センター・アイム1Fギャラリー

この人この店 68

食堂

marumi-ya.

伊藤 真弓さん

映画「かもめ食堂」を知っている方なら、雰囲気は伝わるかもしれません。和食家庭料理の定食屋さん。テーブルや椅子は、懐かしい義務教育時代を思い出させます。「美術室ってこんな机だったよね」なんて声が聞こえてきそう。自分のお店を持つのが夢だった伊藤さん。念願かなって、明るくて温かいお店ができました。玄米ご飯に玄米みそのおみそ汁。メインのおかずは3種類。その中から1品選べます。この日はぶり大根、白菜と豚肉の重ね煮、野菜のかき揚げ。選んだのはかき揚げです。にんじん、ごぼう、かぼちゃに緑が混じって、揚げたて、バリバリ、ん～おいしい。他に日替わりお惣菜が2品。自家製漬物、三年番茶がついて1000円。野菜がいっぱい、とってもヘルシーなおなかもいっぱい。健康志向、しっかりごはんを食べたい人にはぴったりのお店です。ランチでよし、晩ご飯でよし。いつ行っても食べられるのがうれしい！



〒190-0022  
立川市錦町 1-5-6 サンパークビル206  
TEL 042-528-6226  
営業時間 12:00～20:00  
日曜日定休



写真撮影：五来孝平

みどり巡り花めぐり

植物を楽しむ ②

ハーブの種まき

緑花文化士 白井治子(写真も)



ローズマリー

憧れ続けたハーブはセージとローズマリー、そしてタイム。1960年代に流行ったサイモンとガーファンクル「スカボロ・フェア」の歌詞に何度も出てくる名前でした。その後10年以上過ぎて、やっと本物のローズマリーに出会ったとき、海の青にも似た小さなかわいい花に感激すると同時に、葉に少し触れただけでも漂ってくる強い香りに鮮烈な印象を受けたのを覚えています。

それからさらに幾十年。「食」を通して植物に親しんでいる私(単に食い意地がはっているだけともいわれますが)の周りには、いつの間にかハーブも仲間を増やしてきました。ローズマリー、フェンネル、バジル、コリアンダー、チャイブ、ナスタチューム、ロケット、チャービル、パセリ、ポリジ、ミント、モナルダ等々、小さな私の庭を占領しています。

3～4月は種まきの季節。コリアンダーやナスタチュームなどの一年草は毎年播きます。ジャーマンカモミールは一度植えるとこぼれダネで生えてくれ、ミントも放っておくとアツという間にミント畑。コリアンダーは中国料理で香葉(ジャンツァイ)、タイ料理ではパクチー。独特の香りが食欲を誘います。日本には平安時代に伝わったらしいのですが、カメムシに似るといわれる独特の香りは受け入れられなかったようです。属名 Coriandrum は南京虫を意味するコリスという言葉に由来するとか。南京虫ってコリアンダーのようなにおいなのですか？ 私は白いかわいい花が大好きなのでたくさん播いて花束に添えます。

ジャーマンカモミールの花は乾燥させてお茶にするほか、冷凍保存し眠れない日や風邪気味るとき、3～4個の花と砂糖を牛乳に入れて温めます。甘いりんごのような香りのホットミルクは体が温まり、心まで柔らかく包んでくれるようです。これはハーブの大好きな友人に教えてもらった、私のとっておきレシピです。

もうしばらくすると、私の小さな庭は様々なハーブで彩られることでしょう。花も香りも楽しめるハーブたち。今年もウスベニアオイのお茶やルバーブのジャム、ローズマリーの化粧水等々、いろいろと作りたいと、今からわくわくしている私です。

information

- 緑花文化士は、「緑・花 試験(緑・花文化の知識認定試験)」で優秀な成績をとられた方に贈られる称号です。22年度以降の新たな展開を期し今年11月がファイナルとなる同試験や緑花文化士について詳しいことはホームページ <http://www.midori-hanabunka.jp> で。
- 国営昭和記念公園 花みどり文化センターでは、緑花文化士による「緑・花文化を楽しむ講習会」や展示会が開催されています。3月9日(月)は津田幸彦さんを講師に「樹木の冬の姿～冬芽・枝・幹の観察～」、3月15日(日)は安田尚武さんを講師に「早春の万葉植物に親しむ」を予定。詳しくは国営昭和記念公園花みどり文化センター(電話：042-526-8787)までお問合せ下さい。

表紙の人

齋藤 溪城さん(高松町)

本名は文平さんだが、詩吟・溪城流家元。やはりケイジョウさんと、号の方が似つかわしい。難しい漢詩や和歌、俳句などを独特の音調で吟じる。立川文化協会「詩歌の道」案内では、句歌碑の説明に併せて吟じてくれる。中国の古典から近代の詩歌まで幅広いが、朗々と歌い上げると、文字で読むよりも詩歌に託した思いがスーッと心に染み込んで来る。早春、竹林の中で吟じていただきながらの撮影。力のこもった声は竹の葉ずれの音とまじり空まで響いていく。

国営昭和記念公園「こもれびの里」で  
写真：細江英公

お詫びと訂正  
2月号「立川にごちそうあり！」(いのしし鍋、季節のぬた、納豆の青じそ揚げを紹介)に掲載いたしました(居酒屋 ささやま)様の住所に誤りがありました。ご迷惑をおかけしました店主様、ならびに読者の皆様にお詫び申し上げます。  
誤：立川市曙町1-4-3 正：立川市錦町1-4-3

かたこと

立春を過ぎてもしばらくは寒い日が続きます。「えくてびあん」3月号とともに残寒お見舞い申し上げます▼春3月は学校ならば卒業や進級進学、仕事でも就職や転職、何かと落ち着かない時期。希望や期待、不安や寂しさの入り交じる季節です▼それでもお彼岸を過ぎれば春本番。桜の花もそろそろ待たれます。冬の寒さに耐えた草花や動物たちも一斉に活動を始めます。人もまた▼VIEWは未来を担う子どもたちの活動の場として生まれた「たまがわ・みらいパーク」のプラモデルづくり教室のご紹介。自分の手でなにごとかを成し遂げる体験は、子どもたちの中に成長の芽を育むはず▼人を育てたり自信を持たせるのは言葉も同じこと。対談は「病棟の言葉」の言い換えを提案した国立国語研究所の田中牧郎さん▼いかめしく難しい言葉より、優しく温かい春の風のような言葉の方が良く伝わるはず▼えくてびあんも言葉と関わるははしくれとして、春弥生の風のようにありたいと願います。3月10日からは吉例「ベスト立川人・展」もアイムギャラリーで開きます。写真で伝える立川の息吹。どうぞご覧ください。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子  
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 小林達実/五来孝平

えくてびあん 3月号

第27巻 通巻292号  
平成21年3月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 黒須 環  
印刷 (株)大廣社

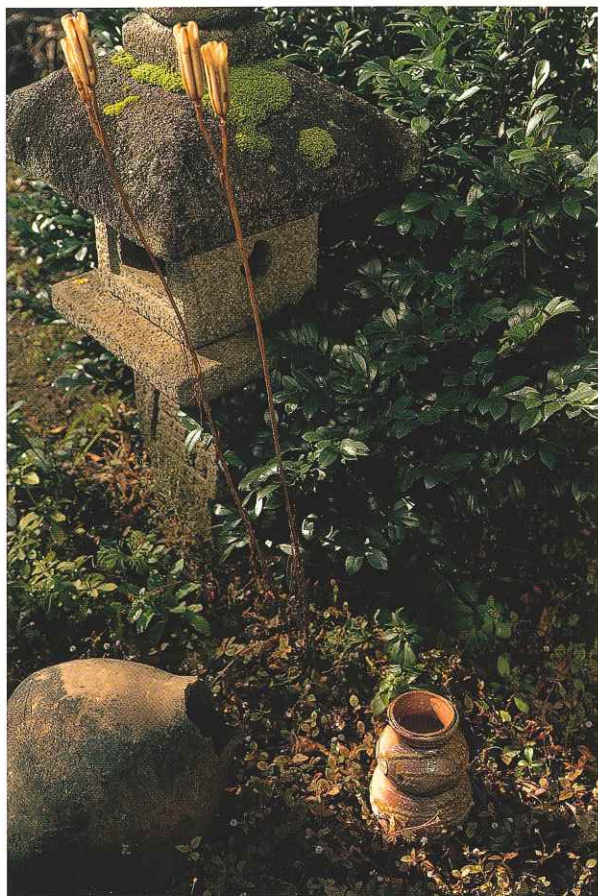
無断転載を禁じます。

さんしゃさんよ

# 三酒三窯

## 立川やきもの談義 一

小林玉来さん（柏町） 下



「万作窯」に集まる人の会が「万作会」。「万作」という名前は作品をたくさん作ろうという意味もありますが、マンサクの花が好きだったから。早春、他の樹木にさきかけて咲くのがいいのです。「万作会」も当初は少人数でも皆若くて意欲的でした。三十年以上経って私を含めて高齢化はいたしかたないですが、轆轤や手びねりで土をいじっている年齢を忘れるんですね。二年に二度開いている展覧会も、今年四月二十八日からアイムギャラリーで開きます。

